

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4372900722
法人名	有限会社 やすらぎの里
事業所名	グループホーム やすらぎの里
訪問調査日	平成 19 年 10 月 26 日
評価確定日	平成 19 年 12 月 4 日
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 11月27日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4372900722		
法人名	有限会社 やすらぎの里		
事業所名	グループホーム やすらぎの里		
所在地 (電話番号)	熊本県八代郡氷川町鹿島943 (電 話) 0965-53-2500		
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3-13-12-205		
訪問調査日	平成19年19月26日	評価確定日	平成19年12月4日

## 【情報提供票より】(19 年 10 月 1 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 9 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 6 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 4.2	

### (2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造	
	1階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	14,200 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	190 円	昼食 270 円
	夕食	290 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名
要介護3	4 名	要介護4	4 名
要介護5	5 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85.8 歳	最低 66 歳	最高 101 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	中村医院 尾田内科医院 和田医院 坂本病院 伊藤医院
---------	----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの周りには秋の収穫を終えた広大な田園風景が広がり、玄関周りに植えられた草花に心が和む。開所時からの方針でもある清潔な環境の継続の名にふさわしく手入れの行届いたホームである。歴史と経験に裏打ちされた隣接施設の協力のもと、医療体制の充実が入居者や家族の安心となっている。経験豊かな職員の介護により、穏やかなゆっくりとした生活を支えている。職員は自信を持ってケアに当たり、入居者と職員、職員同士も仲良く、家族との連携を図り、相互の関係が構築している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を真摯に受け止め、改善点を検討し、改善できることからの取り組みである。運営推進会議の議題として取り上げ、改善を図っている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の意義について周知徹底が図られている。管理者自身現状に満足する事無く前向きに自己評価を行い、全職員で更なる動機付けとし初心に戻る最良のシステムと捉え今後に活かす姿勢である。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	現在まで8回を数える運営推進会議は“ざっくばらん会”と命名し、毎回議題を設定し、多くの参加者を得ている。会議の内容については各家族へ送付することにより、会議へのより一層の理解と参加へのきっかけにして頂きたい。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時には入居者の現況について報告を行い、その場を意見や要望を聞く機会としている。また新たに導入した面会リストに意見・要望欄の箇所を設け、家族の思いに応えている。遠方の家族には電話連絡にて密な報告がなされている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	昨年より“生き生きサロン”の場所を提供し、地域の交流を深めている。生き生きサロンをきっかけとして、地域の方々の訪問を増えてきている。ナイスライ等も検討されており、今後に期待したい。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域で暮らす為には地元の人々との交流や支え合いの重要性を管理者自らが十分認識し職員間にも浸透している。	○	地域に根ざしたホームの姿勢を理念の中に反映させるよう、明文化を期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念について日常的に話し合い職員会議にて月別目標を定めるにあたり具体的に反映させている。理念の実践に向け『何が足りない表』を作成し、職員一人ひとりの気づきをイラスト化して意識付けし事務所に掲示している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	昨年より地域のボランティアによる“生き生きサロン”を通じ月 I・2回の交流が図られている。訪問当日もホールで生き生きサロンが開催され入居者も参加されていた。併設施設の十六夜祭りへの参加や日常的な外出支援により地域との繋がりを支援している。	○	今後は更にホーム独自の行事の開催や認知症相談所の設置なども検討中である。実現を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果を受け運営推進委員会の中で読み合わせを行い、改善点を議題として話し合われ、改善に向けた具体的な取り組みが行なわれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催される運営推進会議も回を重ねる毎に充実した話し合いが行なわれ、手作り資料の冒頭には管理者の熱意ある言葉が綴られ、会議に寄せる思いが垣間見られる。会の支援・意見が後押しとなりサービスの向上に確実に活かされている事が会議録より窺える。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政機関はホーム近距離にあり、管理者は頻繁に足を運び常に気さくに応じてもらえる担当者にも恵まれ適切な情報・アドバイスをもらいホーム運営に反映させている事が管理者との聞き取りより窺えた。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には入居者の近況を報告すると共に家族の要望にもすぐに対応している。又、遠方の家族に対しては電話にて定期的に報告を行い安心へと繋げている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族の意向をできる限り支援しようと管理者も家族と面談を行っている。又、家族の意見や要望を聞く手立てとして面会リストに意見・要望欄を設け記入された事項については、運営推進会議でも取り上げ日々のケアに反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職による職員の異動も殆どなく、入居者は馴れ親しんだホームで信頼関係の築かれた職員と穏やかな日常を過ごしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修や地域でのグループホーム部会に職員を派遣したり、ホーム内での定期的な勉強会を開き職員の意識向上に努めている。又、管理者は入居者の家庭を訪問し職員に対する家族からの要望を把握すると共に、自らが考え行動する職員の育成に力を入れている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム部会にて交流を深め強いネットワークの実現を目指している。他のグループホームより見学の依頼があり、交流が深まることが期待できる。	○	今後グループホーム同士で職員交換による研修等も検討されており、実現に向けた取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新しく入居される方やその家族に対しては事前に話し合いが十分持たれている。入居者の情報を収集し精神の安定を図りゆっくり慣れてもらうよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の穏やかな表情や職員とのやりとりから日頃の関わりが窺われる。入居者のできる事を見守りながら、それぞれの役割を支援している。また、職員も介護が一方通行にならないよう入居者の助言や知恵を受け入れながら支えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者会議にて入居者一人ひとりの思いや希望・意向の把握に努め、又、入居者とのコミュニケーションの中から要望等を探るように心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃より入居者の状況の把握や家族との面談等を通じ、本人・家族の意向や希望に応じたプランとし、又担当者会議で職員の観察や気づきを話し合い、本人・家族や職員の意見を反映させたプランとしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に三ヶ月に一度の見直しと随時入居者の変化に応じて情報を把握し、見直しが図られている。	○	入居者の中には高齢化や重度化の刻々と状態が変化する方もおられ短期間での見直しの必要性が今後益々重要になると思われる。引き続き現状に即したプランの見直しが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接の特養ホームでの十六夜祭り参加等交流を行っている。又、同ホームの管理栄養士より献立作成アドバイスを受け、入居者の健康管理に役立っている。その他職員による受診対応や買物支援等柔軟な対応となっている。	○	今後更に多機能性を発揮できる環境作りを現在摸索中である。今後に期待したい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医への受診対応や往診等本人・家族の希望を聞きながら適時適切な対応に努めている。協力医院との連携や24時間対応可能な往診や定期的な往診も取り入れ、受診後の家族への説明を十分行う事により家族への安心・信頼へ繋げている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期についてホームとしての基本方針を定め、運営推進会議に回り家族の意見も含め看取りまでと考えている。看取り介護についての同意書も用意している。協力医院との連携により、最期まで支えていく意向である。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者にとって暮らし易いホームである為にプライバシーの確保や重要性を管理者は日々のミーティングや職員会議で伝えている。又、守秘義務の勉強会を行うなど周知徹底されている。排泄時の支援や居室を訪ねる際等尊厳を大切にされた対応が確認できた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	快適な暮らしは自分のペースに添った形が一番であるという考えのもと大まかな日程や行事はあるものの出来る限り本人主体の生活ができるような支援が行なわれている。食事に時間を要する入居者へも優しい声かけと見守りによる支援がみられた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テレビの料理番組を見ながら入居者の要望を聞き献立に反映している。管理者自ら早朝市場での食材の仕入れを行なっている為、旬の食材が使用されることも楽しみの一つとなっている。	○	高齢化や重度化により、食事の準備や職員と入居者が共に食事を取ることは困難であるが食後の片付け等できる事を見守りながら行っている。更にできる事がないか(味見等)職員で検討し、一緒に楽しい食事として頂きたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望に応じた入浴支援としている。入浴拒否に対して職員で対応方法を話し合い、間隔が空かないよう支援している。しょうぶ湯・ゆず湯などの季節風呂や温泉気分の薬用湯等楽しい入浴支援が行われている。又、入居者の介護度にあわせ、福祉用具対応となっている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや園芸等これまでの生活歴を活かした役割を楽しみながら行えるよう、支援している。書道を得意としていたが以前のように筆を持つことが出来なくなった入居者へもこれまでの書を広げ、共に喜び意欲を持ち続けることで出来るような関わりがされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望や体調にあわせに日常の散歩はもとより、できるだけ戸外へ出る機会を作っている。病院受診の際物産館等への立ち寄りが入居者の楽しみとなっている。毎週土曜日を車を使った外出とし、買物やドライブの支援がされている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を全職員が認識し、十分な見守りの中、玄関・裏口・非常口・居室と鍵をかけないケアの実践に取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時職員連絡マニュアルを作成し、年2回の避難訓練を実施している。事前連絡無の夜間職員緊急呼出し訓練や警備会社とも連携を図り有事に備えている。	○	更に今後地域の協力が得られるように、運営推進会議等に働きかけを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	かかりつけ医や併設の管理栄養士の指導を取り入れている。食事以外の水分確保は担当職員の定期的な声かけにより対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花が入居者と共に植えられている。共有空間は植物や壁飾りが季節感を与え、採光も良くゆったり寛げるソファや畳の場は寛ぎの場でもある。常に清潔の保たれていることも居心地の良さとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族にも協力を得、馴染みの家具や書道具、好みのカレンダー等が持ち込まれている。持込の少ない入居者の居室には、職員の配慮のもと、その人らしい居室環境を支援している。	○	今後も引続き入居者とともに職員の気づきや配慮によって居心地良く過ごせる居室の支援をお願いしたい。